

(3) 華南

141 昭和12年7月20日

広田外務大臣より
在福州内田(五郎)総領事、在広東中村
(豊一)総領事他宛(電報)

事変が拡大し華南地方居留民の引揚げを必要
とする場合の措置振り訓令

本省 7月20日後10時発

合第六〇四號(極秘)

北支事變擴大シ萬一貴地居留民ニ引揚ヲ命スルノ必要アル
ニ至ル場合ハ貴官ノ御裁量ニ依リ貴地軍側トモ緊密ナル連
絡ヲ取り時期ヲ失セス必要ナル措置ヲ探ラレ度ク引揚先ニ
付テハ機宜決定セラレ差支ナキモ引揚先トハ十分連絡ヲ保
タレ度シ

本件カ事前ニ洩ルルニ於テハ一般居留民ニ不必要ノ動搖ヲ
與フルノ虞アルヲ以テ最後迄貴官限りノ含ミトセラレ度シ
軍、遞信省トモ打合濟

中支ニ對シテハ在支大使宛同趣旨訓電濟爲念

本電宛先 福州 厦門 廣東 汕頭 雲南

支 香港 臺灣外事課長ニ轉電セリ

142 昭和12年8月1日

在雲南川南(省)領事より
広田外務大臣宛(電報)

抗日氣勢高揚のため在留邦人にハノイへの引
揚げ命令発出について

雲南 8月1日後発
本省 8月1日夜着

第一六號

當地省黨部ニ於テハ三十日各機關團體代表ヲ召集シ抗日工
作ニ關スル協議ヲ行ヒタル結果雲南全省各界ヲ網羅セル抗
敵後援會ヲ組織シ(中等學校以上ノ學校ハ別ニ學生聯合抗
敵後援會ヲ組織)徹底的抗日運動ヲ起スコトニ決定シ不取
敢同會ノ名義ヲ以テ蒋介石、中央政府及黨部ニ宛テ既定國
策擁護ノ通電ヲ發セリ

抗日氣勢ハ蒋介石ノ聲明、劉主席ノ放言ニ拍車ヲ加ヘ日ヲ
逐ヒ濃厚トナリ當館々員宿舍ニ投石硝子ヲ破壊セル外(負
傷者ナシ)車庫ニ收容シアル自動車ニ「日本走狗」等ノ侮
辭ヲ數個所ニ切附ケ損害ヲ與ヘ門扉ノ抗日的落書ハ益々増

大シツツアル實狀ナリ支那側ニ對シテハ右事實ヲ擧ケ嚴重取締方ヲ要求シ現ニ私服巡警ヲ配置シアルモ何等效果ナシ居留民ノ住宅ニモ投石シ使用人ヲ脅迫スル爲不安ノ念ニ驅ラレ居ルカ此ノ上前記後援會ノ活動ヲ見ルニ於テハ滿洲事件事直後ニ於ケル暴行事件ノ實(例)モアリ何時不祥事件發生スルヤモ測リ難キ情勢ニ立至リタルヲ以テ本官ハ在留民ニ對シ河内ヘノ引揚方ヲ命セリ

河内ヘ轉電セリ

河内ヨリ支、上海ヘ轉電アリタシ



143 昭和12年8月2日 坂本(龍起)台湾總督府外事課長より
広田外務大臣宛(電報)

福建省主席を往訪し治安維持および居留民保護を申入れた旨福州総領事よりの報告

第八二號
福州發本官宛電報
第四號

台北 8月2日後發
本省 8月2日夜着

大臣ヘ轉電アリタシ

第一三二號

臺灣外事課長發貴大臣宛電報第七三號ニ關シ

一、北支事變今後ノ展開ハ素ヨリ豫斷ヲ許ササルモ南支ノ一角ヨリ見ルトキハ今次事件ハ先ツ北支丈ケニ止マリ中南支一帯ニ亘ル全面的衝突ニハ至ラサルヤニ見ラレ支那側カ全國的二盛ニ對日抗陣ヲ張り居ルハ日本ノ攻撃ニ對スル應戰體形ニシテ對内政策上已ムナキ「ヂエスチユア」ト見ルヲ妥當トスルモノノ如ク北支以外ニ於テハ我方ニ於テ兵力ヲ用ヒサル限り正面衝突ハ避ケ得ルヤニ認メラルルモ一般空氣ノ惡化ニ依リ居留民ニ對スル突發的不祥事件ハ豫想セサルヲ得サルカ故ニ此ノ點ニ對シ警戒ヲ要スル次第ナルカ福建ニ於テハ北支事件相當展開ストモ居留民全部ノ引揚ハ未タ考慮スルノ時期ニ達シ居ラス先ツ婦女子ノ避難乃至引揚ヲ考フルヲ以テ足ルモノト考ヘ居レリ

福建ニハ一萬名ノ籍民アリ是等ハ内地人ト異リ土地ト密接ナル關係ヲ有シ最惡ノ場合ニ於テモ引揚ケ難キ者及引揚ケテモ臺灣ニ身寄ナク直ニ生活ニ窮スル者相當アリ之

ヲ福州ノミニ就テ見ルニ在留籍民千八百ノ中(イ)勸告ニ依リ内地人婦女子ト共ニ臺灣へ避難スル籍民婦女子五百(ロ)命令ニ依ル場合引揚籍民婦女子一千(ハ)領事館ト進退ヲ共ニスル男子五百(ニ)命令ニ依ルモ引揚ケサル土着籍民二、三百ノ推(定)ナルカ最悪ノ場合命令ニ依ル引揚者中四百名ハ生活費ヲ補給スルヲ要シ一人月十圓トシ一箇月約四千圓ヲ要スル見込ニシテ旁全部ノ引揚ハ折角ノ地盤モ一朝ニシテ崩レ仲々行ヒ難キ事情アリ廈門ノ如キハ特ニ然リトス

斯ノ如クナルヲ以テ日支間ノ全面的交戦状態ニ入ラサル限リ當地方ノ形勢多少悪化スルコトアルトモ成ルヘク婦女子ノ引揚ニ止メ各商社男子ハ領事館ト進退ヲ共ニスル決心ヲ以テ踏止マルヘク指導スルト共ニ福建當局ト手ヲ握リ治安ノ確保ヲ計リ内臺人ノ地盤ヲ保持スルコトモ最モ策ノ得タルモノト信シ且現在ノ空氣ニ於テハ假ニ上海、廣東方面相當混亂スルコトアリトモ福建ノ關スル限リ大体右方針ニテ進ミ得ン様ニモ考ヘラレ陸軍武官トモ話合ノ結果差當リ右方針ニテ進ムコトニ協議ヲ遂ケタリ

依テ一昨二十七日日本官陳儀往訪本官限リノ心配ナリト前

提シ福建ニハ多數ノ籍民アリ不幸最悪ノ場合ニ於テモ全部引揚不可能ナル事情ヲ述ヘ若シ支那側ニ於テ治安ノ維持及居留民ノ保護ヲ全フシ得サル場合ニハ或ハ兵力ニ依ル現地保護ノ必要ヲ生スルコトナシトモ限ラスルコトトモナラハ日支兵力ノ衝突ヲ覺悟スルヲ要シ福建ヲ兵火ノ巷ニ化スルコトモ考ヘラルル次第ナルカ本官ノ熱望スル所ハ民族の二將又經濟の二臺灣ト極メテ密接ナル關係ニ在ル福建省民ヲ塗炭ノ苦シミニ陥ラシメサルニアリ斯ク考フルトキ福建ニ關スル限リ貴方ニ於テ全責任ヲ以テ領事館側ト提携シ治安ノ維持ト内臺人ノ保護ニ任シ以テ福建ヲ兵火ノ巷ヨリ救フコト大局上執ルヘキ萬全ノ策ト信スル處貴官ハ其ノ決心ト自信ナキヤ否ヤト問詰メタリ右ニ對シ陳儀ハ自分モ此ノ點ハ非常ニ心配シ居ル所ナルカ大体御意見ノ通り出來得ル様考ヘラルルモ福建ハ謠言多ク疑心暗鬼ヲ生スルノカ心配ナリ兎ニ角確實ノ所ハ暫ク熟慮セシメラレ度シト申出テタルヲ以テ本官ハ今直クノ問題ニハアラサルヲ以テ能ク考慮シ大局上ヨリ善處セラレ度シト強ク申入レ置キタリ

支、上海、南京、廈門、廣東、沙頭、臺灣外事課長へ暗送

セリ

144 昭和12年8月4日

坂本台湾總督府外事課長より
広田外務大臣宛(電報)

有事の際の台湾籍民に対する保護措置に関し

福州総領事より請訓

台北 8月4日後発

本省 8月4日後着

第八三號

福州發本官宛電報

合第九七號

大臣へ轉電アリタシ

第一三六號

貴大臣發臺灣外事課長宛電報

第五〇號ニ關シ

臺灣籍民ハ原則トシテ現地保護ノ御方針ノ趣ナルカ右ハ内地人引揚後ニ於テモ臺灣籍民ハ引揚セシメサル趣旨ト解セラルル處元來南支ニ於ケル籍民ハ四十餘年ノ久シキニ亘リ我治外法權ノ庇護ヲ受ケ生ヒ立ち來レルモノニシテ常ニ帝

國臣民タルコトヲ看板トスル者大部分ニシテ支那人ト混同視セラルル者ハ極ク小部分ニ過キス一朝有事ノ際ニハ寧口内地人ヨリモ強ク支那側ノ反動的迫害ヲ受クナキヤヲ惧ルル實狀ニシテ形勢惡化セハ籍民婦女子モ任意引揚クル者多カルヘシ又命ニ依ル引揚ノ場合籍民ノミヲ除外スルコトハ現地領事トシテ實際上及約束上行ヒ憎キ立場ニアル次第ナルカ冒頭貴電ニ所謂現地保護トハ籍民ノ現地放棄ヲ意味スルモノニアラスシテ保護即チ最惡ノ場合兵力ニ依ル保護ヲ意味スルモノトモ解セラルル處籍民ノ現地保護ヲ爲ス以上内地人モ同様保護シ得サル理由モナカルヘク此ノ點些方了解ニ苦シム所ニシテ陸海軍武官トモ協議シタルカ遂ニ了解ニ達スルヲ得サリシ次第ナリ
今次事變ハ往電第一三三號ヲ以テ卑見開陳ノ如ク福建ノ關スル限り支那側ノ責任ヲ問ヒツツ善處シ行カハ大體婦女子ノ引揚ヲ以テ足ルヤニ存セラルルモ萬一ノ場合ニ處スル心得上前陳籍民保護ニ關スル具體的措置振御回電ヲ煩ハシ得レハ幸ナリ
支、上海、厦門、汕頭、廣東、臺灣外事課長へ轉電セリ
廣東ヨリ香港へ轉報アリタシ

145 昭和12年8月11日

在汕頭山崎(誠一郎)領事より
広田外務大臣宛(電報)

数日中に汕頭居留民に引揚げ命令発出の予定

について

汕頭 8月11日後発

本省 8月11日夜着

第一二四號(至急)

往電第一二一號二關シ

昨十日引揚勸告ヲ發シ殘留者中便船アリ次第引揚クル者モ
アリ又職業上命令アル迄引揚困難ナル者モアリ唯當初ヨリ
苦心(セル)問題ハ居留民ノ商品財産等ノ處分ニテ事變直後
ヨリ種々研究セシモ排日貨ノ折柄外支人共引受者ナク外國
人倉庫經營者モナク左リト運出不可能ナル他面逐日生命
ノ脅威ヲ感スル現狀トナリ漸ク支那側ニ善意ノ財産保護ヲ
依頼スル(脱?)ノ外ナキ處居留民ハ今や生命第一主義トナリ
タルハ萬已ムヲ得ス且情勢ノ惡化ト支那側ノ防備逐日完成
スル狀況ニテ遲延セハ退路ナシ廣東青年有志ノ抗敵大刀隊、
軍隊ノ黑幕ニテ無頼漢ノ「テロ」決死隊ノ組織モアル模様
其ノ他港口封鎖ノ噂モアリ殊ニ日々市内外ニ軍隊増加スル

コトトテ北支ノ變化ニ伴ヒ或ハ何等事端發生セハ直ニ擴大
シテ引揚不能ニ陥ル見込充分ナリ右等ノ情勢ニ鑑ミ數日內
ニ引揚命令ヲ發シ其ノ直後全部ノ居留民ヲ引揚ケシムル豫
定ナリ本官及館署員ハ右引揚終ラハ同船ニテ一應臺北ニ引
揚ケ御指令ヲ待ツ所存ナリ
右海軍側ト充分打合濟
支、廣東へ轉電セリ

146 昭和12年8月11日

在廣東中村總領事より
広田外務大臣宛(電報)

対日空氣の惡化に伴う居留民保護方針請訓

廣東 8月11日後発
本省 8月11日夜着

第三四四號(部外極秘)

當地方ノ排日狀況ハ往電第二九七號以後仇貨偵察隊ノ出現、
抗日學生宣傳隊ノ街頭演說、漢奸ノ拘禁及銃殺、抗日歌ノ
放送等ニ依リ抗日氣勢舉リ支那使用人ノ辭職、支那街通行
中ノ邦人ニ對スル惡戯者又邦人ニ對シ薪炭食料ヲ販賣セサ
ル者等現レ人氣惡化セルノミナラス汕頭方面引揚ノ報道ア

リ又上海大山中尉射殺事件モ加ハリ前途暗澹タルモノアルニ依リ更ニ引揚者増加シ十四日唐山丸ヲ最後トシテ殘存者百四十名中婦女子三十名ノ豫定ナルカ是等ハ英佛租界當局ヨリ退去ヲ要求セラルル迄籠城ノ決心ヲ固メツツアリ當港ニハ目下驅逐艦早苗アリテ居留民全部退去スル迄ハ警備ニ當ラルル決心ニテ一同感激シ居ル所ナルモ冷靜ニ省察スルニ軍艦ニ對シテハ往電第三一六號ノ如キ過激分子ノ陰謀アリ又虎門要塞ニ魚雷十六個配備セラルル諜報アリ別ニ當地陸軍武官室ニハ廣東軍ハ先ツ汕頭及海南島碇泊ノ我軍艦ヲ砲撃シ事變ヲ南支ニ擴大シ北支ヲ牽制セントスルヤノ情報モアリ

(2) 一方軍艦附近ニハ多數ノ民船碇泊シ爆彈ヲ投スルカ如キコト絶無ニアラス且行動不便ナル河川中ニアリテ陸上ノ支那軍ト衝突スルハ眞ニ不利ナル次第ナリ又滿洲事變當時ノ如ク支那軍力軍艦ヲ標準ニ砲列ヲ數クカ如キ事態起ラハ其ノ後ニ拔錨スルハ帝國海軍ノ名譽ニモ關スル次第ト存シ憂慮シ居ルカ英佛領事モ我軍艦ト支那軍砲火ヲ交フルノ結果租界カ影響ヲ受ケ日本人ニ危害ノ及フコトナキヤヲ懸念シ屢其ノ意ヲ本官ニ洩ラシタルコトアリ

當地在留邦人ノ多數ハ英佛租界内ニ在住シ租界當局ハ保護上充分ノ誠意ヲ示シ居リ生命ノ危険ナク事態險惡トナリ引揚ノ場合モ軍艦保護ノ下ニ邦船ニ依リ香港ニ出ツルコトハ出入船舶少キ爲不可能ト認メラレ居ル處往電第三三八號所報ノ如ク租界前ニ英船ヲ留メ邦人ヲ之ニ收容下航スル了解ヲ取付ケ居ル次第ナリ

居留民及領事館員全部撤收迄軍艦ヲ留メ置クコトハ軍艦在留民共ニ相當ノ危険ニ遭遇スルカ又ハ引揚ノ時機ヲ不必要ニ早メサルヘカラサルニ至ルヘキヲ以テ海軍當局ト御折衝ノ上早目ニ警備艦ノ下航方御考慮相仰度ク陸軍武官ト打合ノ上意見上申ス

支、福州、厦門へ暗送セリ

147 昭和12年8月13日

在汕頭山崎領事より
広田外務大臣宛(電報)

汕頭居留民の引揚げ実施について

汕頭 8月13日後発

本省 8月13日夜着

第一二六號

往電第二四號ニ關シ

情勢悪化ニ伴ヒ上海關係ニテ夕張司令官ヨリ速ニ引揚ヲ可トスル旨勸告モアリ成田司令ト協議ノ上急轉直下昨十二日午前八時引揚命令ヲ發シ乗船場所ヲ二箇所ニ定メ引揚者ハ正午迄ニ乗船ヲ終ル様通知スルト共ニ直ニ警察官ヲ手分シテ保護ニ任シタルカ極メテ順調ニ運ヒ午後四時引揚者左記ノ通り全部ノ乗船ヲ完了セリ

本官ハ市長代理ニ對シ領事館ハ一時事務休[。]停[。]引揚ニ付財産保護ノ爲巡警ヲ派スル様依頼シ次テ帝國臣民ハ長年貴方ノ保護下ニ居住營業セル處近來貿易杜絶ノ狀況ニ加ヘ當地軍隊ノ防備形勢ニ極度ノ脅威ヲ感シ大部分ハ引揚クルモ一部ハ殘留スルニ付是等ノ生命財産ヲ充分保護セラレ度ク若シ引揚ノ際保護全カラス事端ヲ發生スル場合ハ其ノ性質ノ如何ニ依リ日本海軍ハ保護ノ責任上自發的保護ノ手段ヲ講スヘク之ニ依リテ生スル全責任ハ支那側ニ在ルコト御承知アリタシト通告シ覺書トシテ交付シタリ他面首席米國領事ヲ訪問シ引揚ノ事情ヲ語り支那側ニ交付セル覺書ノ寫ヲ交付シテ各國領事ニ「サーキュラー」ヲ依頼シタリ
本官ハ館署員ヲ纏メ午後二時領事館ヲ閉鎖シ軍艦ニ謝意ヲ

表シ港外迄軍艦保護ノ下ニ福建丸ニテ午後五時出帆セリ
尙引揚ニハ些細ノ防害^{（勿^レ）}ナク時間ノ餘裕モアリ完全ニ終了シタリ

記

引揚者

内地人全部ニテ四八名、籍民一三九名、朝鮮人一名

殘居者

汕頭、籍民四二名（支那人ヲ假裝乃至諸種ノ事情ヨリ引揚ノ意思ナキ者及香港行四名ヲ含ム）

奧地、内地人七名（支那人ノ妻五及其ノ子二）

籍民七七名（支那籍ヲ僞稱シ居ル者多ク危險ノ見込ナシ）

（本十三日廈門着明十四日高雄着ノ豫定）

福州、廣東、臺灣外事課長へ轉電シ

廈門へ轉報セリ

支、北平、上海へ轉電アリタシ



148 昭和12年8月14日

広田外務大臣より
在広東中村総領事宛（電報）

上海方面の情勢急迫に対し広東官民引揚げ方訓令

第五七號(至急)

本省 8月14日後8時50分発

上海方面ノ情勢急迫シ海軍ニ於テハ各方面ニ相當大規模ノ
作戦行動ヲ執ル模様ニモアリ今後事態ハ一層悪化スルモノ
ト認メラルルニ付貴館竝ニ居留民ハ時機ヲ失セサル様引揚
ケラレ度貴地軍艦ニ付テハ海軍省ヨリ何分ノ訓令アル筈
支、北平、在支各總領事ヘ轉電セリ



149 昭和12年8月15日 在広東中村総領事より
広田外務大臣宛(電報)

広東居留民の引揚げ予定について

広東 8月15日後発
本省 8月17日後着

第三五四號

在留民約百六十餘名館員附添ノ上驅逐艦早苗[?]ノ護送ヲ受ケ
十八日午前十時唐山丸ニテ當地發香港ヘ引揚ク本官以下館
員數名残務整理ヲ終ヘ次第出發ノ豫定
本電唐山丸香港着迄發表セラレサル様願度シ
支、上海、福州、厦門、香港、臺灣外事課長ヘ轉電セリ



150 昭和12年8月16日 在福州内田総領事より
広田外務大臣宛(電報)

海軍側の福州総領事館引揚げ要請に對し事情
の許す限り残留を希望する旨訓請

福州 8月16日後発
本省 8月16日後着

第一四四號(大至急、極秘)

當地ハ陳主席以下各首腦部ノ誠意ニ依リ上海事件モ大ナル
影響ナク極メテ平靜ナルカ海軍側ハ頻リニ居留民ノ引揚ヲ
急キ風聲鶴唳的「デマ」ニ神經ヲ尖ラセ最惡的解釋ヲ下シ
單調ナル居留民一部モ之ニ引摺ラレ引揚ヲ希望スル大勢ト
ナリタルカ右ハ特ニ閩江入口ヲ封鎖セラレ軍艦諸共袋ノ鼠
トナル惧アリトノ情報ニ脅エタルモノニシテ當地ノ地勢上
考ヘラレサルニアラス本官ニ於テモ全然此ノ如キ(脱)ナシ
トシテ萬一ノ場合ノ責任ヲ執リ得サルニ付昨十五日附ヲ以
テ婦女子(内臺人共)ノ引揚ヲ勸告シ男子ニ對シテハ引揚ノ
準備ヲ命シ明十七日ヨリ四隻ノ船ニテ二十日迄ニ内臺人男
女千五百名ノ引揚ヲ完了スルコトナレリ右ハ當地ノ地勢
上已ムナキ所ニシテ且又昨十五日臺灣軍一機南昌爆撃ノ爲

當地上空ヲ往復シタル事實モアリ日支人双方共重苦シキ空氣ニ閉サレ商賣モナク不安裡ニ殘留スル要モナキヲ以テ引揚已ムナキ次第ト存ス

然ルニ海軍側ハ當館ノ引揚ヲモ希望シ居ル處當館ノ閉鎖ハ外支人ニ對スル反響モ大ニシテ且又引揚ノ理由モ立チ難キヲ以テ殘務整理竝ニ殘留者(内少數、籍民百名位ノ見込)及公私有財産保護監視ノ理由ヲ以テ本官館署員數名ト共ニ當分殘留シ當地方ノ狀況ヲ見ルコトト致度ク右ニ付テハ絶對ニ不安ナキニ付事情ノ許ス限り右様殘留スヘキ旨御訓電ニ接シ度シ(海軍ニ對スル關係上本省ノ自發的御訓令トセラレ度シ)

本官以下ノ殘留ニ軍艦ヲ必要トセサルニ付此ノ點海軍省ト聯絡アリ度ク又軍ノ對福軍略モアルヘキニ付陸海軍側ノ諒解ヲモ御取付請フ

上海、厦門、臺灣外事課長へ轉電セリ

151 昭和12年8月17日

広田外務大臣より
在福州内田総領事宛(電報)

福州総領事館員は居留民とともに至急引揚げ

方訓令

第四一號(至急)

本省 8月17日午前6時5分發

貴電第一四四號ニ關シ

上海方面ノ情勢ニモ鑑ミ今後事態全面的ニ惡化ノ虞アルニ付貴官ハ館署員及居留民ト共ニ至急引揚ケラレ度シ(籍民中任意殘留スルモノハ其ノ意ニ任セ差支ナシ)
厦門、臺灣外事課長へ轉電セリ

152 昭和12年8月17日

在福州内田総領事より
広田外務大臣宛(電報)

福州居留民および総領事館員の引揚げ予定に

ついて

福州 8月17日後發

本省 8月17日夜着

第一五〇號(至急、極秘)

貴電第四一號ニ關シ

今次日支紛争ニ付テハ帝國政府ハ今猶不擴大主義ヲ拋棄セサルニ拘ラス支那側ハ當初ヨリ日支全面的衝突ヲ豪語シ必

死ノ反抗ニ躍進シ來リ我方之ニ引摺ラレ既ニ我不擴大政策ノ破調ニ瀕セルハ何人モ認ムル所ナリ

斯クナル以上全面的ニ對支問題ヲ解決スルノ外ナキハ當然ナルモ此ノ點ニ付本省ヨリ判然タル御垂示ナク唯引揚げ急クノミニテ出先ハ少カラス之ニ迷ハサレタリ然レトモ今帝國ノ進ムヘキ途ハ明カニ示サレタモノノ如クナルヲ以テ本官館署員、居留民全部ヲ率キテ來ル二十一日ヲ期シ臺灣ニ引揚ク

福建省ハ地理的ニ民族のニ將又經濟的ニ臺灣ト離ルヘカラサル關係ニ在リトハ人ノ口ニスル所ナリ然レトモ帝國ノ對福政策ハ領臺後數(在)ナラスシテ崩潰シ爾來四十年ノ久シキ何等ノ進展ヲ見ス斯クテ臺灣併合ノ意義ノ大半ヲ沒却シ去レリ

幸ナル哉今次日支全面的衝突ノ幕切下サレタル以上帝國トシテ將又臺灣總督府トシテ福建ニ對スル遠大ナル計畫ヲ樹テ速ニ其ノ實行ニ移ルノ急務ナルヲ痛感ス

往電第一四七號我軍部ノ對厦門戰略ノ樞機ニ關シテハ本官當地引揚げ臺灣着ノ上總督府及軍部側ト協議ノ心算ナリ僭越乍ラ御含迄

上海、臺灣外事課長へ轉電セリ

153 昭和12年8月21日 坂本台湾總督府外事課長より
広田外務大臣宛(電報)

海軍側勸告に従い厦門居留民に引揚げ準備を
命令した旨厦門總領事代理よりの報告

台北 8月21日後発
本省 8月21日夜着

第一三四號(部外絶對極秘)

厦門發本官宛電報

合第四〇號

本官發大臣宛電報

第六二號

上海方面ノ戦局擴大ニ伴ヒ當地ノ空氣頓ニ緊張シ市政府ニ於テハ極力民衆ノ安定及不穩行動ノ防止ニ努メ居ルモ厦門ヲ繞ル對岸各要地ニハ支那兵相當多數集結シ塹壕ヲ構築シ防衛施設ヲ施スト共ニ厦門城内ニ便衣兵ヲ放チ居留民ノ動搖ヲ窺ヒ居ル一方數日來奧地其ノ他ヨリ潛入シ來レル浮浪ノ徒目立チテ増加シ他方臺灣人無頼漢ノ中ニモ此ノ機ニ乘

シ何等策動セントスル氣配アリ(時局ニハ直接關係ナキモ
茲數日中ニ臺灣人ノ關係スル傷害事件二件アリ)何時不測
ノ事端發生ノ懸念ナシトセス又臺灣人無賴漢ノ妄動等カ切
懸トナリ何等事端ヲ醸スカ如キコトアリテハ勢ノ趨ク處海
軍陸戰隊ノ上陸トナリ思ハサル重大事件ノ發生ヲ誘致スル
コトナキヲ保セサル處先般來五水司令官(當港ニハ目下夕
張、追風在泊中)ヨリ本官ニ對シ頻リニ當地居留民ノ引揚
ヲ從憑シ福州引揚ト決スルヤ更ニ當地ノ引揚ヲ迫リ當方ト
シテモ既ニ戰局ハ全面的ニ擴大ノ惧アリ當地ノ形勢ノミヨ
リ判斷シ荏苒日ヲ送り居ルノミナラス

海軍側ノ申出ヲ斥ケテ迄當地ノ安全ヲ保障シ得サル次第第二
付萬一ノ場合ヲ慮リ十七日不取敢婦女子ノ引揚ヲ勸告シ置
キタルカ右海軍側ノ當地引揚ヲ焦リ居ルハ或ハ作戰上ノ見
地ニ出テタルニアラスヤトモ察セラレ在留民ノ經濟的權益
モ考慮セサルニハアラサルモ既ニ時期ノ問題トナリ居ル以
上早目ニ引揚ヲ敢行スル方事端發生ヲ防止シ却テ損害ヲ少
クスル所以ト存シ海軍側ノ勸告ヲ入レ本十八日居留民ニ對
シ全面的引揚ノ準備ヲ命シ二十四、五日迄ニ引揚ヲ完了セ
シムルコトトセリ尙内地人ハ勿論籍民モ商賣杜絶シ此ノ儘

踏止マレハ經濟的ニ立チ行カサル者少カラス既ニ此ノ事ア
ルヲ觀念シ引揚ヲ希望シ居ル者多キモ當地ノ特殊情勢ニモ
鑑ミ本省ノ訓令ニ依ル引揚命令ノ形式ヲ取り度キニ付至急
御回電ヲ請フ尙當館及在留民引揚費用見込額金二萬圓至急
電送アリ度シ

上海、福州、香港、臺灣外事課長へ轉電セリ

154 昭和12年8月22日

坂本台湾總督府外事課長より
広田外務大臣宛(電報)

廈門居留民の全面引揚げ承認方廈門總領事代

理より請訓

台北 8月22日前発
本省 8月22日前着

第一三八號(至急、部外絶對極秘)

廈門發本官宛電報

第三九號

大臣へ轉電アリタシ

第六五號

貴電第三〇號ニ關シ

當地情勢ハ其ノ後表面著シク惡化セリトハ思ハレサルモ對岸各要地ニハ支那兵多數集結陣地ヲ構築シ在泊帝國軍艦ノ眼ノ前ニ砲坐ヲ築キ居ル外市内ニハ便衣兵及不浪者浮潛入（其ノ數昨今日立チテ増加セリ）日臺人ニ對シ直接ノ危害コソ加ヘサルモ面當の二振舞ヒ居ル爲内地人家族ノ如キハ當方ヨリ何等ノ勸告モ爲ササルニ數日前迄ニ既ニ大部分自發的引揚ヲ了シ殊ニ當地在留民カ福建ニ於ケル「パロメータ」トモ目シ居ル福州在留民總引揚ノ報傳ハルヤ上海方面ノ戦局ニモ鑑ミ廈門側ハ勿論鼓浪嶼内邦人モ極度ニ狼狽ノ色見エタルモ當方ハ本邦ノ福建ニ對スル特殊關係ヲモ考慮シ極力在留民ノ動搖防止ニ努メ一方市當局ニ對シ市内ノ治安維持ニ遺憾ナキ様要求シ更ニ形勢ヲ觀望セント決意セル次第ナルカ海軍側ニテハ當初ヨリ當地ノ現地保護ノ困難ナルヲ主張シ（現地保護ニハ相當多數ノ兵ヲ要スルノミナラス兵ノ使用力戰略上ノ見地ニ出ツルナラハ兎ニ角場合ニ依リテハ却テ居留民保護ノ目的ニ副ハサルコトアルヘキハ言フ迄モナシ）上海方面ノ戦局發展スルヤ頻リニ居留民ノ引揚ヲ迫リ當方トシテモ萬一ノ場合ヲ考慮不取敢家族ノ引揚ヲ勸告セル處福州引揚ト聞クヤ更ニ全面的引揚方強ク勸告

シ來レリ

本官ノ得タル印象ニ依レハ五水戦トシテハ當地地方ニテ問題ヲ起ササランコトニ非常ニ氣ヲ付ケ居リ此ノ上居留民ノ殘留ハ事端發生ノ端ヲ爲スヤモ知レスト懸念シ居リ（現地海軍トシテハ支那側ヨリ何等挑發的行爲アラハ之ニ應戰ノ外ナカルヘク自然居留民ノ生命ニ迄危險ヲ及ホスコトナリ斯克考フルモ無理ナキコトナルヘシ）刻々變轉スル情勢ニ鑑ミ一刻モ速ニ當地ノ全面的引揚ヲ迫リ當方トシテモ海軍側ノ切ナル勸告ヲ押シ切テ迄當地ノ安全ヲ保障シ得サルニ付已ムヲ得ス今回ノ措置ニ出テタルモノニシテ既ニ引揚相當進捗セル此ノ際是非共之ヲ完了セシメ度キニ付御了承ヲ請フ

尙見方ニ依リテハ海軍側ノ考フルカ如キ危險性ナシトセス殊ニ一萬ニ近キ居留民ノ輸送ニハ相當ノ時間ト多數隻ノ船舶ヲ要シ萬一ノ場合船練リノ都合付クヤ否ヤ甚タ心許ナク且鼓浪嶼ハ周圍三哩ニ過キサル小島ニテ收容能力其ノ他ノ點ヨリ見テ避難場所トシテ不適當ナルノミナラス必スシモ安全地帶トモ考ヘラレス又事件發生ノ場合ニハ主ナル輸送機關、舢板等ハ利用シ得サルヤモ知レス在留民保護ニ萬全

ヲ期セントセハ此ノ際一時引揚モ已ムナキ次第ト存セララル

155 昭和12年8月23日 広田外務大臣より
坂本台湾総督府外事課長宛(電報)

厦門居留民の全面引揚げは承認するが引揚げ命令は総領事館より発出方厦門総領事代理へ訓令

本省 8月23日後6時40分発

第六七號(至急)

厦門へ左ノ通

第三二號

貴電第六二號ニ關シ

貴地ノ全面的引揚ハ已ムヲ得スト認ムルモ本大臣ノ名ニ於テ引揚ヲ命スルコトハ他地トノ振合モアリ面白カラサルニ付貴官ノ裁量ニ依リ命令ヲ發セラレ差支ナシ貴官發坂本外事課長宛電報第三七號ノ次第モアリ爲念

經費二萬圓ニ付テハ内容不明ナルモ不取敢北支事件費(款項)各目ヨリ左ノ通り前渡(機密費ハ本拂)電送ス右ハ精算證明ヲ要スルモノニ付御注意アリタシ

外國旅費(館署員分) 三、四〇〇圓

居留民救護費 一三、六〇〇圓

雜費 二、〇〇〇圓

機密費 一、〇〇〇圓

上海、香港、臺灣外事課長へ轉電セリ

156 昭和12年8月24日 在福州内田総領事より
広田外務大臣宛(電報)

厦門居留民の引揚げ問題に関する台湾総督ならびに陸海軍の意向について

台北 8月24日後発
本省 8月25日前着

第一五七號(極秘)

厦門ノ引揚問題ニ關シ

總督竝ニ陸海軍ト協議シタルカ何レモ事情ノ許ス限り全面的引揚ヲ希望シ居ラス海軍緒方大佐ハ厦門ハ軍艦碇泊ニ便ナルヲ以テ最後迄相當ノ海軍力ヲ置クヲ厭フモノニアラサルモ海軍力ニ依ル支那街迄ノ防備ハ事實上不可能ニシテ結局最悪ノ場合ノ目標ハ鼓浪嶼ニ收容シ得ル限度ノ居留民ニ制限スル要アリト思惟シ居ルモ決定的ノコトハ中央ノ方針

ヲ問合スヘシト語レリ又陸軍林參謀ハ陸軍ノ方針トシテハ厦門ニ於テ内臺人ニ、三被害アル位ニテハ兵ヲ出シ得サルモ餘リニ惡化セハ上海方面ノ戦局收拾ノ後ニ於テ同方面ノ一部軍隊ヲ南ニ廻シ厦門方面及奥地ノ對日空氣ノ惡シキ地(點)ヲ衝キ度キ意嚮ナルモ(奥地ハ飛行機爆撃ニ依ル)貴總領事ノ御意見等モアリ福建ニ於テハ一般人民ニハ被害ヲ與ヘス却テ將來内臺人ノ入込ミ發展ニ便宜トナル様軍事行動ノ目標ヲ極力警戒制限スル方針ナリト語レリ

臺灣外事課長ヘ轉報シ厦門ヘ轉電シ香港ヘ暗送セリ
上海、青島、北平、天津、滿ヘ轉電アリタシ



157 昭和12年8月25日 在香港水沢(孝策)総領事より
広田外務大臣宛(電報)

広東省ないし粵漢鐵道への空爆につき広東総

領事より意見具申

香港 8月25日後発
本省 8月25日後着

第一五六號(極秘)
中村總領事ヨリ

第三八〇號

臺灣方面ニ於テハ近ク廣東省爆撃ノ計畫アルヤニ傳聞スル處元來

(一)廣東省民カ各階級ヲ通シ全支抗日運動ノ源泉ヲ爲シ來リタルハ未タ日本ノ實力ヲ體驗セサルコトモ重大ナル原因ナルカ今回ハ我軍空襲ノ聲ニ驚キ市民ハ狼狽其ノ極ニ達シ居ル有様ナリ今次帝國政府ニ於テ全支ニ亘リテ軍閥カ挑戰態度ニ出テタル上ハ廣東省ニモ我實力ヲ認識セシムルコトハ將來ノ爲ニ極メテ必要ナリ

(二)粵漢線ハ最近有力ナル軍事輸送機關トナリ歐米ヨリノ軍需品ハ全部香港經由本線ニ依リテ四川方面ニ輸送セラレ戦局ノ長引クニ連レテ益々其ノ利用價値ヲ發揮スヘシ
廣東省内ノ軍事配置ハ屢電報ノ通り汕頭及海南島方面ニ我軍ノ活動アルコトヲ考慮シ廣東軍ハ勿論廣西軍ノ援助ヲ得テ防禦シツツアリ

(2) 斯ル事情ノ下ニ在リテハ此ノ際廣東省殊ニ粵漢線英德附近ノ鐵橋ヲ破壊シ韶關附近ノ飛行機工場ヲ爆破シ且絶エス廣東省方面ニモ軍事行動ノ行ハルヘキコトヲ暗示スルハ廣東、廣西ノ兩軍ノ北上ヲ阻止シ且中央ヨリノ援軍ヲ南下セシム

ルコトナリテ北支ニ於ケル軍事行動ヲ牽制スルコトナ
ルヘシ

素ヨリ空爆ニ先立チテハ第三國ニ與フル影響ヲモ考慮シ爆
撃ノ目的ヲ明瞭ニシ且目標ヲ軍事施設ニ限定シ殊ニ廣州市
内ニハ既ニ主要軍政機關ハ他二分散シ居ルニ拘ラス英佛ノ
租界アリ且高射砲ノ準備モ相當固メ居ルコトナレハ爆撃ノ
效果モ大ナラス寧ロ無辜ノ人民ニ與フル惡影響ヲ顧慮シ之
ヲ避クルコト等慎重ナル考慮ヲ加フルニ於テハ國際關係ヲ
刺戟スルコトナク充分膺懲ノ目的ヲ達シ得ヘシト思考ス御
參考迄

支、臺灣外事課長へ轉電アリタシ

158 昭和12年8月25日 坂本台湾總督府外事課長より
広田外務大臣宛(電報)

廈門居留民の引揚げに対する中国軍の妨害行
動に関し中国側へ抗議について

台北 8月25日後発

本省 8月26日前着

第一六一號

情報ニ依レハ廈門市政府及保安隊等ハ第五百五十七師ノ爲ニ
強制接收セラレ(多少死傷者ヲ出シタル由)又本府關係全閩
新日報社モ同師兵士ニ闖入セラレ大阪商船ヨリハ邦人引揚
ノ爲廻航ノ三隻(盛京、大球、長沙)ハ陸上トノ交通ヲ阻止
セラレ引揚者收容不能トナリ當地引揚者ヲ運搬ノ香港丸モ
亦港外ニ碇泊中ナル旨申出ノ次第アリタリ右ノ眞偽ハ兎モ
角トシ本廿五日内田福州總領事當課員同道支那總領事ヲ往
訪支那人引揚ニ付我方ニ於テ特ニ好意ヲ以テ取計ヒ居ルニ
モ拘ラス支那側ニ於テ斯ル暴舉ニ出ツルハ甚タ不都合ニシ
テ結局之カ爲支那人ノ引揚ヲ不可能ナラシムヘキヲ以テ陳
主席、廈門市長及第四百七十五師ニ對シ支那在留民ノ狀況ヲ
篤ト説明シ引揚者ニ對シテハ日支双方ニ於テ便宜ヲ供與シ
前顯ノ如キ不都合極マル行動等ハ絶對ニ之ヲ取締ル様電報
ニテ至急申入レラレ度シト嚴重要求シタル處支那總領事ハ
早速手配スヘキ旨快諾セリ

廈門へ轉電セリ

159 昭和12年8月26日 坂本台湾總督府外事課長より
広田外務大臣宛(電報)

廈門居留民に対し引揚げ命令発出の旨廈門総領事代理より報告

第一六三號(至急)

廈門發本官宛電報

第五五號

大臣へ轉電アリタシ

第七四號

當地ノ形勢日ヲ逐フテ惡化シツツアル次第ハ累次往電ニテ御承知ノ通りナルカ本二十五日五水司令官ヨリ海軍省ノ電命ニ依ル趣ヲ以テ至急引揚命令發出方勸告シ來リ出來得レハ今明日中ニ引揚げ完了スル様申入レ來レル處既報支那軍ノ手荷物及身体検査ハ益々嚴格ヲ極メ籍民中何等取ルニ足ラヌ些細ノ嫌疑ニテ不法拘引セラルル者續出シ當初ハ市政府ヘノ抗議ニテ直ニ釋放セラレタルカ市政府ハ支那軍ノ爲市内警察權ヲ完全ニ奪ハレ本朝來市政府トノ交渉ハ全然無效果トナリ市政府ノ存立ハ殆ト有名無實トナレル結果殘留居留民ハ極度ノ危險ニ曝サルルニ至リ此ノ上不安ノ狀態ニ

台北 8月26日前發
本省 8月26日前着

放任シ置クニ忍ヒサルヲ以テ司令官ノ勸告ヲ容レ當地出張中ノ山田武官トモ話合ノ上本二十五日殘留日臺人ニ對シ引揚命令ヲ發出シ一兩日中ニ引揚げ完了ノ豫定ナリ、尤モ引揚者既ニ五千八百八十名(内地人二百三十五名、朝鮮人二十二名、籍民四千九百二十三名)引揚げ了シ内地人ハ當館署員、臺灣軍派遣員及當館ト聯絡ノ要アル少數ノ者ヲ除キ明二十六日迄ニ全部引揚クル筈ニテ現在殘留籍民ハ約三千名アルモ内支那人トノ血族關係其ノ他ノ理由ヨリ引揚不可能又ハ引揚ヲ希望セサル者二千名内外ノ見込ニテ大体本二十五日迄ニテ大部分ノ引揚げ了セル次第ナリ

尙「ライター」及荷役苦力ハ二十四日來支那軍ノ指金ニ依ルモノカ邦船ノ荷役ヲ停止シ船舶(脱?)ニ依リ僅ニ積荷ヲ爲シ居ル狀態ニテ一方海上交通モ二十四日來午後八時迄ニ制限セラレ前記荷物検査ト共ニ引揚者ニ多大ノ困難ヲ與ヘ居レリ

臺灣外事課長ヨリ内田福州總領事へ轉報アリタシ
香港へ轉電セリ

160 昭和12年8月28日

坂本台湾総督府外事課長より
広田外務大臣宛(電報)

海軍側が作戦上の理由から厦門総領事館の引

揚げを勧告について

台北 8月28日前発

本省 8月28日前着

第一七四號(大至急)

厦門發本官宛電報

第六〇號

大臣へ轉電アリタシ

第七八號

貴電第三四號ニ關シ

厦門側カ逐日悪化シ居ル狀況ニ關シテハ累次往電ニテ御承知ノ通りニシテ鼓浪嶼ハ差向キ危険ヲ生スル程度ニハ達シ居ラサルモ支那軍入市以來市民ニ紛レ便衣兵盛ニ潛入シツツアリトノ情報アリ租界内ノ人心頗ル動搖シ居ルノミナラス事實之カ潛入ノ形跡アルヲ以テ當館警備ノ爲(本官自身保護ノ爲ニアラス)一昨日來夕張ヨリ警戒兵若干ヲ派遣シ居ル處昨二十六日海軍側ニ於テハ南支一帶ニ於ケル作戦上

ノ必要ヨリ即刻當館ノ引揚ヲ勧告シ(往電第七五號)更ニ本二十七日ニ至リ當館止マルトモ同様ノ理由ニ依リ本日ニモ

在泊艦(夕張外驅逐艦一隻)全部ヲ引揚クルノ外ナキ情勢ニ

立至レル旨申越セリ當方トシテハ當地ノ形勢ニ鑑ミ出來得

レハ夕張ノ警備繼續ヲ希望スルモ作戦上(第三艦隊カ南支

沿岸ノ平時封鎖ニ着手セルコトモ其ノ一理由ナルヘシ)ノ

必要トアラハ已ムヲ得サルヘシト存ス

尙居留民引揚事務ハ本日ヲ以テ完了セリ

臺外ヨリ内田總領事へ轉報アリタシ

香港へ轉電セリ



161 昭和12年8月29日

坂本台湾総督府外事課長より
広田外務大臣宛(電報)

厦門総領事館の引揚げを決定した旨同総領事

代理より報告

台北 8月29日後発

本省 8月29日夜着

第一八一號(至急)

厦門發本官宛電報

第六三號

大臣へ轉電アリタシ

第八〇號

往電第七八號ニ關シ

五水司令官ヨリ在泊軍艦ハ本二十八日中ニ全部引揚クヘキ旨通告シ越セルニ付本官同司令官ヲ往訪セル處軍艦ノ滯泊ハ最早事情許ササル趣ニテ自分(司令官)トシテハ命令權ハナキモ作戰行動開始後當館ノ殘留ハ非常ナル危險ニ逢着スヘク假ニ當館殘留ストモ右行動ハ中止スルコト能ハサルヘシトテ堅キ決心ヲ示サレタル處當鼓浪嶼モ厦門側ノ窮迫ニ伴ヒ急速ニ惡化シ昨二十七日夜ノ如キ便衣兵、暗殺團等ノ活躍活潑トナリ殘留臺灣人數名ノ如キモ逃込ム始末ニテ一方當館モ一時是等便衣兵ニ遠卷キニサレ館署員ハ何レモ館内ニ集リ一步モ外出出來サル有様トナリ此ノ儘ノ狀態ニテ軍艦引揚クルトセハ如何ナル事態ニ立至ルヤモ知レサルニ付貴電第三三號御回訓ノ次第ハアルモ萬已ムヲ得ス本二十八日當館引揚ニ決セリ

當方トシテハ海軍引揚クルトモ館署員一同岡崎總領事來任迄何トカシテ頑張り度ク決意シ居リタルモ居留民引揚事務

モ終了セル此ノ際刻々惡化スル上記ノ如キ形勢ニ於テ當館ヲ存置セシムルコトハ最早無意味トナリタルノミナラス此ノ上ノ殘留ハ事端發生ノ因ヲ爲スコトトナルヘク其ノ結果中央ノ御方針ニモ副ハサルヤモ知レスト存シ山田武官トモ充分話合ノ上當館引揚ヲ決行スルコトトセルニ付テハ何卒右御了承ヲ請フ

尙邦人ノ厦門ヘノ通行ハ絶對ニ不可能トナリ謀者ニ依リ情報蒐集等ノ如キモ頗ル困難トナレル次第ニテ山田武官外臺灣軍派遣員モ此ノ上當地ニ滯留ストモ大ナル效果ヲ擧ケ得サルノミナラス海軍側ノ作戰ニ支障ヲ來スカ如キコトアリテハ面白カラストナシ臺灣軍ニ請訓ノ結果右承認ヲ受ケ居リ本二十八日當館々員ト共ニ長沙丸ニテ引揚クルコトトナレリ當館閉鎖竝ニ保管居留民殘留財産ノ委託其ノ他ニ依リテハ夫々市政府及工部局兩當局ニ依頼濟尙臺北ニ於テ御指揮ヲ待ツコトト致度シ

香港へ轉電セリ

162 昭和12年9月1日

在香港水沢總領事より
 広田外務大臣宛(電報)

広東空爆により香港の対日空気が悪化のため婦
女子は内地引揚げについて

香港 9月1日後発
本省 9月1日夜着

第二一〇號

三十一日午前九時廣東爆撃ノ報ニ接スルヤ本官ハ警視總監ヲ訪ヒ邦人保護方重ネテ申入ルト共ニ日本人會側ニ對シテモ萬一事件發生ノ場合ニ處スヘキ手配豫メ準備方注意シ置キタルカ支那人ノ對邦人人氣ハ頓ニ惡化セルモノノ如ク一、同日午後一時半頃些細ナル動機ヨリ當市灣仔ノ邦人食料品雜貨商鎌田(政吉)商店前二五、六百名ノ支那人蝟集シ口々ニ「日本人ヲ打殺セ」、「焼拂へ」等殺伐ナル叫ヒヲ舉ケタルカ我方ノ急告ニ依リ多數ノ警官出張シタル結果群集ハ二時半頃離散セリ尙同七時頃再ヒ同所ニ支那人ノ集團ヲ見タルモ格別事端ノ發生ナク十一時頃平穩ニ歸セリ

三、大阪商船碼頭ニ於テ廣東丸船員「キヤツチボール」ノ遊戯中午後五時頃過テ水中ニ落タル球ヲ拾ハントセル支那人苦力ヲ他ノ支那苦力カ拾ツテ遣ルナト妨害セシニ端ヲ

發シ大喧嘩トナリ約百名ノ支那人同船側ニ集マリ氣勢ヲ示セルモ警察官ノ出張ニ依リ解散シ事ナキヲ得タリ

三、同日九龍驛附近ニテ邦人ノ手荷物ヲ運搬セル二人ノ苦力カ他ノ苦力仲間ニ毆打セラル

四、七日當地出帆ノ淺間丸ニテ約百名ノ在留邦人婦女子内地ヘ引揚クルコトナレリ

上海、北平、臺灣外事課長ヘ轉電アリタシ



163 昭和12年9月1日 在香港水沢総領事より
広田外務大臣宛(電報)

香港英当局が在留邦人に対して指定箇所を集
結避難するよう通告発出について

香港 9月1日後発
本省 9月1日夜着

第二一四號

一日午前十一日警視總監ヨリ電話ニテ在留日本人ハ豫テ指定ノ箇所ニ來ル四日正午迄ニ集結セシムル様總督ノ命ヲ受ケタルニ付本夜若クハ明日朝警察官ヲシテ日本人側ヘ通告セシムル手筈ナリト申シ來レリ

仍テ本官ハ警視總監ニ面會ヲ求メ仔細事情ヲ聽取シタルカ
 本朝行政院〔エキセキユーテイヴ、カウンシル〕會議ノ結
 果政府ノ命令發出トナリタルモノノ由ニテ民政長官ヨリ追
 テ本官ヘ正式通告アルヘシトノコトナリキ本官ハ豫テ在留
 民ノ集結ハ之ヲ絶對必要トスル事態發生スルニアラサレハ
 行ハサル建前ニテ警視總監ト話合ヲ付ケ置キタル次第ナル
 モ先方ニ於テハ事件發生豫防ノ見地ヨリ必要ト認メ斯ル措
 置ヲ執ルコトニ決シタル以上邦人保護方ヲ一切當政府ニ委
 ネ居ル當方ノ立場トシテハ押返シ彼此爭フ餘地ナキ次第ニ
 付直ニ日本人會側ニ通知シ在留民ニ對シ集結準備ヲ整ヘル
 様今夜中ニ周知方取計ハシムル筈

上海、北平、天津、臺外ヘ轉電アリタシ

英ヘ轉電セリ

164

昭和12年9月13日

在香港水沢総領事より
 広田外務大臣宛(電報)

香港英当局の在留邦人集結措置に対し引揚げ
 者続出の旨報告

付記 昭和十三年三月十九日發在香港中村総領事より

り広田外務大臣宛電報第三三〇号
 避難集結中の邦人の一時帰宅について

香港 9月13日後發
 本省 9月13日後發

第二八三號

當地在住民ノ集合避難竝ニ引揚狀況ニ關シ

一、在留民ノ集結ハ七日夕刻迄ニ秩序正シク行ハレ(一部少
 數者ハ自己ノ危険負擔ニ於テ頑トシテ自宅ニ留マレル者
 アリ)タルカ其ノ後民内ニ異變モナク避難所ハ至ツテ平
 穩ナリ

二、然ルニ集結避難ニ決スルヤ在留民ハ一般ニ浮足立チ將來
 ノ不安ト營業不能トニ基キ本邦ニ引揚クル者多數ニ及ビ
 今日迄ノ歸國者約八百五十名(集結決定前百二十、其ノ
 後廣東丸三百、福建丸百九十、香港丸五十一、宮崎丸百
 八十六名)ニ達シ今後北野丸、照國丸等ニ依リ二百名内
 外引揚クル見込ナルカ之ニ依リ婦女子ハ殆ト全部歸國ス
 ルコトトナリ殘餘ノ千四百名ハ事態極メテ險惡トナラサ
 ル限り踏留マルモノト豫測セラル

(付記)

香港 昭和13年3月19日後発

本省 昭和13年3月19日夜着

第三三〇號

客年往電第二八三號ニ關シ

當地居留民ハ長期ニ亘リ避難集結ノ爲營業及生活上多大ノ不便ヲ感シ居ルヲ以テ本官着任以來之カ緩和方考究シ居リシ處昨今我方爆撃ノ支那人ニ對スル影響モ慢性的トナリ又集結以來被害ヲ受ケタル邦人ナク且試ミニ歸宅セル者モ特ニ危険ヲ感セサルニ立至リタルニ鑑ミ本官ヨリ數日前警視總監ニ對シ毎日十名位ヲ目立タサル様歸宅セシメ一時集結ヲ停止スルコトノ可否ニ付意見ヲ求メタル處總監ハ中央及行政委員會ニ諮リ新聞紙等ニ公表セサルコトトシ之ニ賛成シ來リ十七日ヨリ實行中ナリ

尙差當リ直接邦人ノ生命ヲ脅カス危険ナキモ支那人ノ排日感情ハ緩和セル次第二ハアラサルヲ以テ萬一ノ場合ハ何時ニテモ數時間ノ豫告ニテ再集結シ得ル様避難所ハ其ノ儘存置スルコトニ手配シアリ

尙又引揚家族ノ復歸ハ特別ノモノヲ除キ當地ノ物價高、家

屋拂底及不安定狀態等ニ鑑ミ尙早ト思考ス上海、臺灣外事課長へ轉電アリタシ

165 昭和12年12月

引揚げ居留民の善後措置に関する内田総領事の意見書

付記 外務省作成、作成年月日不明

「引揚人員調」

昭和十二年十二月

支那事變關係

居留民善後處置ニ關スル意見書

支那引揚居留民關係事務所

主任 内田總領事 提出

目次

總説

第一 復歸斡旋ト復歸資金ノ補給

第二 内地滞留者生活扶助

第三 復業資金ノ融通

第四 復興資金ノ融通

第五 就職斡旋機關ノ新設

第六 既存政府貸下資金ノ融通

第七 支那事變被害善後處置委員會ノ設立

第八 引揚居留民關係事務所ノ廢止ト東亞ニ課ノ擴充

支那事變關係居留民善後處置ニ關スル意見書

内田總領事

總說

今次事變勃發當時ニ於ケル在支居留民ハ二十六地(在外公館所在地ヲ單位トス)八萬七千人ナリシカ事變ニ依リ引揚ケタルモノハ内地ヘ引揚者四萬二千人臺灣其他ヘ引揚者一萬三千人合計五萬五千人ニシテ現地ニ殘留シ居ルモノハ上海(五千)北平(三千)天津(一萬二千四百)ノ三地ニ萬餘ノ外其後復歸シタルモノヲ加ヘ漸ク三萬ニ過キス

此等内地臺灣等ニ引揚ケタル居留民ハ多年粒々辛苦築キ上ケタル地盤ト生活ノ本據ヲ拋棄シ急遽混亂ノ中ニ漸ク僅カ當座ノ手廻品ヲ携ヘ身ヲ以テ引揚ケタルモノニシテ現金ヲ所持スルモノ少ク大部分ハ早速生活ニ窮シ郷里又ハ知人ヘ

ノ寄食モ永キニ亘リテハ容易ナラス内地滯留ノ永引クト寒氣ノ迫ルトニ伴ヒ過半數冬着及寢具ノ持合セモナキ引揚者ノ困窮狀態益々痛々シキモノアリ、今次事變ハ在支居留民ニ取リテハ殆ント致命傷ニ近キ痛手ナルカ居留民モ國策ノ赴ク處止ムナシトシテ大袈裟ナル不滿ヲ唱フルモノナキモ其ノ日ノ生活上ノ脅威ニ付テハ強キ不安ヲ感シ政府ノ善處ヲ要望スル聲漸次高マリツツアリ

勿論引揚者ニ對シテハ内務省ニ於テ四十萬圓ノ豫算ヲ以テ窮困者ノ救濟ニ當リ居ルモ五萬餘人ニ對スル四十萬圓ハ一人平均十圓ニ達セサル極メテ小規模ノ金額ニシテ右ハ事變勃發當時時局ノ見透附カサリシ爲メ差シ當リノ應急措置トシテ豫算ヲ得タルモノナルカ既ニ其額甚タ少額ナルノミナラス内務省側ノ救濟審査ハ内地ノ貧民救濟制度ヲ其儘當テ嵌メントスルモノ引揚者ハ現ニ窮ストハ云ヘ現地ニ相當ノ資産ト地盤ヲ有スルモノニシテ其間自ラ生活狀態ニ差異アルヲ免カレサル次第ナルカ内務省側ハ洋服ヲ着シ居ルモノハ紳士ト觀ルカ如キ審査方法ニテハ引揚者中其救濟ヲ受ケ得ルモノハ極メテ少部分ニシテ且其救濟額モ一家族最大限度打チ切り百圓以内ニ制限セラレ居ル結果十二月初旬迄ノ救

濟成績ハ第一回千余名八萬余圓第二回三千余名六萬余圓計
四千余名十五萬圓ニ過キス殘額二十五萬圓ヲ今猶握リ居ル
カ如キ内務省側ノ救濟振ニ付テハ居留民側ノ不平甚タシキ
モノアリ

又就職ニ就テハ引揚事務所及民團側ニ於テ極力斡旋シ居ル
モ在外居留民ノ業務狀態ハ内地ノ求職者ト其趣ヲ異ニシ且
内地滯留期間不確定ニテ腰掛ケノ嫌アル爲メ就職モ容易ナ
ラス又内地従業員ノ軍事應召ニ依リ缺員ト成リ居ル仕事モ
應召者ニ對スル給與續行ノ爲メ後任採用ノ余地少キト國民
一般ノ同情ハ軍ニ集注セラレ引揚等ニ對シ一顧ヲ與フルモ
ノナキ等極メテ不利ナル立場ニ在ルハ誠ニ氣ノ毒ニ堪ヘサ
ルナリ

然レトモ支那引揚者ハ我對支發展ノ先驅ニシテ事變ノ爲メ
國策ノ犠牲トシテ政府ノ命令ニ依リ引揚ケタルモノナルカ
故ニ政府トシテモ全幅ノ同情ト理解トヲ以テ是カ善後處置
ニ當ルコト當然ノ任務ナルヘシ元來今次事變ハ我邦未曾有
ノ事變ニシテ其直接影響ヲ眞向ヨリ受ケタル居留民ノ善後
處置ニ付テハ非常時ノ態度ヲ以テ大所高所ヨリ施策スヘキ
ニ拘ラス徒ニ事務的二流レ^{編カ}經倫ヲ欠クカ如キ消極的的態度ハ

須ク一抛シ積極的ニ乘リ出ス要アルヘク今ヤ軍事行動モ大
体一段落ノ域ニ進展セル此際最モ時機ヲ得タルモノト認メ
ラルル次第ナルカ萬一之ヲ等閑ニ附シ去ラハ政府殊ニ外務
省ハ一般ノ非常ナル糾彈ニ遇ヒ恐ルヘキ事態ヲ惹起スルナ
キヤヲ憂慮セラルルカ故ニ對支軍事工作ノ一段落ト帝國議
會開會ヲ「チャンス」トシ引揚者善後方策ヲ樹立シ政治的
ニ之ヲ解決シ急ヲ要スルモノヨリ速急着手實行スルノ要ア
リト認ム

差シ當リ執ルヘキ善後方策案ニ付テハ別紙ニ詳述セルモ當
面ノ所要經費ハ

(甲)本年度追加豫算要求額金五百七拾參萬八千參百圓也(第

二ハ内務省所管)

一、百八十五萬五千圓

三、八十八萬圓

支那復歸資金

支那復歸資金

復業資金ノ貸附高

支那事變關係居留民善後處置

(乙)來年度豫算要求額金四百貳拾八萬千七百圓也(第二ハ内

2 邦人引揚げ問題

務省所管)

一、百八十五萬五千圓

支那復歸資金

二、貳拾七萬圓

内地滯留者救助金(内務所管)

三、貳百萬圓

復業資金ノ貸附高

四、拾四萬圓

就職斡旋機關新設費

五、壹萬六千七百圓

支那事變關係居留民善後處置

委員會經費

以上甲乙兩者合計金千壹萬九千七百圓也(内、百拾五萬圓内務省所管)(五百壹萬余圓ハ下附、五百萬圓ハ貸下ケ)ニシテ事件費ノ總額ヨリ觀レハ所謂九牛ノ一毛ニモ達セサル少許ノモノナルヲ以テ新議會ニ本年度追加豫算又ハ來年度豫算トシテ夫々提出要求シ居留民善處方策ヲ確立スルコト緊要事ト認ム(以下省略)

(付記)

引揚人員調

支那引揚人員數ノ確數調査ハ至難ナルカ大體ノ推算左ノ通り

本表人員數ハ引揚ケタル總數ニシテ其後復歸シタルモノ又

ハ他へ移動シタルモノ相當アリ尙本表數ハ臺灣、朝鮮、關東州へ引揚ケタルモノヲモ含ム

地名別	引揚人員總數	備考
天津	推定 六、〇〇〇	
張家口	約 四〇〇	
芝罘	六〇〇	鮮人ノ引揚先ハ北支、滿洲等ニテ朝鮮へ歸還ハ少數ナルベシ
青島	一六、六三三	
濟南	三、二四〇	
上海	推定 一五、〇〇〇	
蘇州	七五	
杭州	五〇	
南京	四〇〇	
燕湖	五〇	
九江	七五	
漢口	一、七六一	
鄭州	九	

計	香	雲	廣	厦	汕	福	重	宜	沙	長
	港	南	東	門	頭	州	慶	昌	市	沙
推 定										
五、三二	二〇〇	四	六三〇	八、五〇〇	七〇〇	一、七〇〇	二六	二〇三	八	九
				同 前	同 前	大部分臺灣へ引揚				